

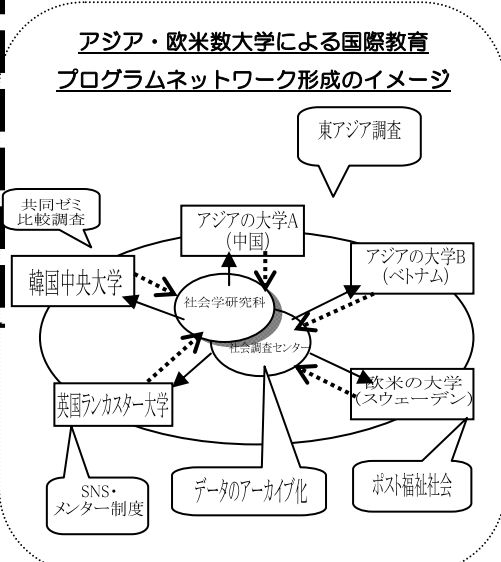
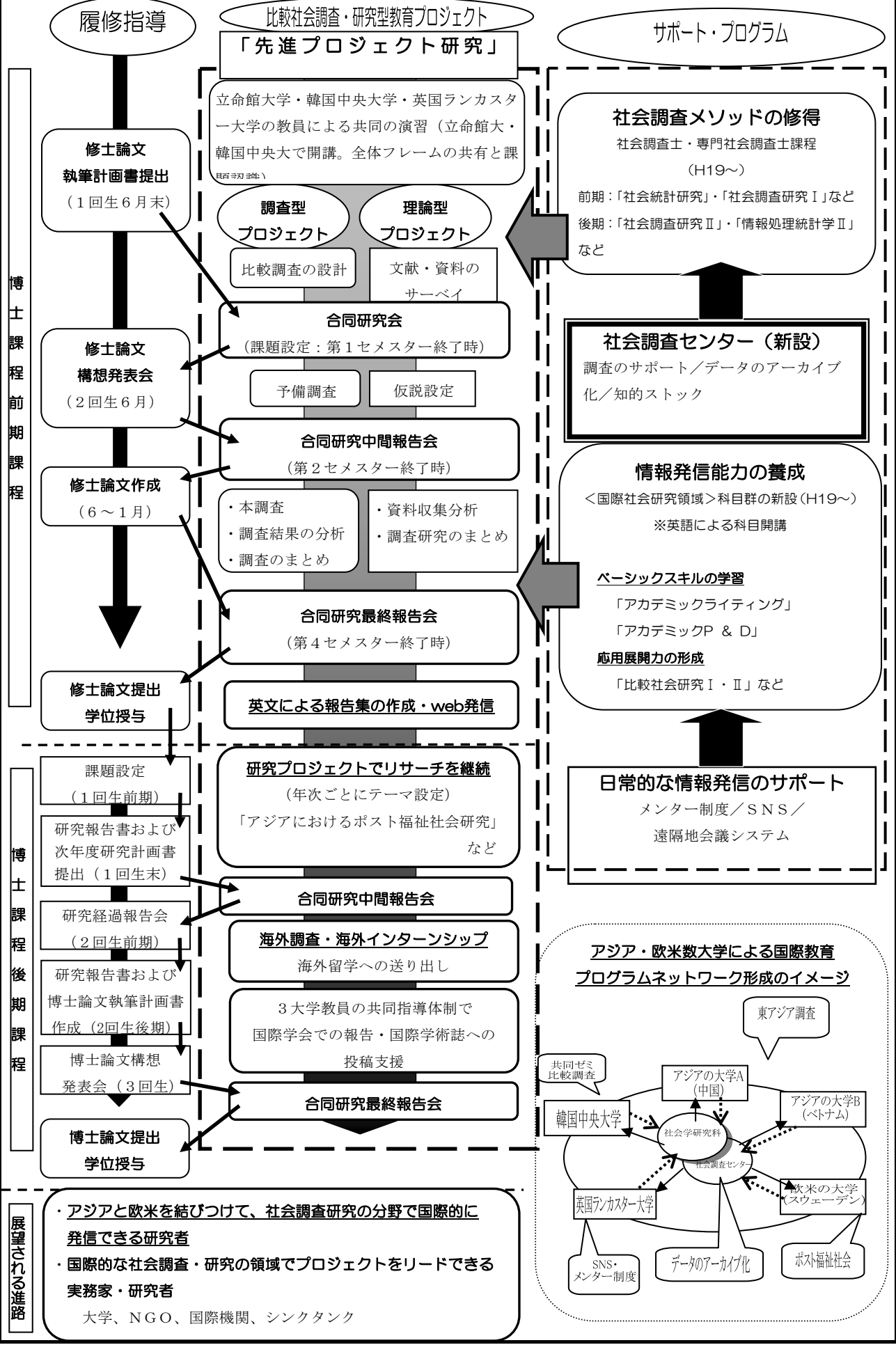
教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	立命館大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	海外大学共同による比較社会調査研究型教育		
主たる研究科・専攻名	社会学研究科応用社会学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 増田 幸子		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>1. 本プログラムの目的とテーマ</p> <p>グローバル化が著しく進む今日の世界では、国境を越えたグローバルスタンダードとしての共通性が求められながらも、他方その地域の文化や現状を理解し、地域的な特性をふまえた社会構築が必要とされ、そのような視野を備えた人材の養成が求められている。本プログラムはこのような課題に応え、<u>欧米一辺倒でない社会像や、アジアの実態と行く末を考究しえる、複眼的視野を備えた人材、研究者を育てることを目的とする。</u>このため<u>英国ランカスター大学、韓国中央大学、立命館大学大学院社会学研究科、3大学による共同の取り組みとして研究教育プロジェクトを設置し、①欧米社会を反映した現代社会科学における主流の社会理論を学ぶとともに、②現在のアジア社会の流動する状況を調査・研究し、その特性を把握する。また、国際的なチームによる調査・研究活動を通じて、③国際的に通用しうる社会調査メソッドを修得し、その成果を発信していける力を養う。</u>これらにより<u>アジアと欧米を結ぶ複眼的視野を養うとともに、実践的な調査スキルを備えて国際的に活躍できる人材・研究者を育成することを目指す。</u></p> <p>2. これまでの取り組み</p> <p>本研究科は2007年度から社会調査士・専門社会調査士課程を設置し、専門的調査スキルを備えた人材の育成に力を入れてきており、他方、国際化課題に応えるため<u>＜国際社会研究領域＞科目群を設け、特に情報の受け取りと発信の力を育てる教学を展開してきている。</u>本プロジェクトはこれらの取り組みを発展させ、高度化していくことを企図し、<u>具体的な比較調査研究のフィールドと国際的な共同指導を得ることで、国際的通用性をもった共同研究・調査活動を展開していく試みである。</u>これらは過去数年間にわたるランカスター大学、中央大学との共同研究会などの取り組みの経験を基盤としている。とくにこの2年間は院生同士の共同研究報告会を開催しており、さらに中国、ベトナムなど数大学の参加を得ることで、将来的には本学社会学研究科をハブとした国際的な教育・研究ネットワークを構築することを計画している。</p> <p>3. 教育プログラムの概要</p> <p>本プログラムは当面、英国ランカスター大学、韓国中央大学、本学社会学研究科、3大学による共同の取り組みとして行い、<u>【理論フレームの学習・研究→比較調査・研究→まとめ→英語による情報発信】</u>という一連の研究の流れを教育プログラム化し、海外複数大学の学生、研究者と共同で調査、研究を行い、その成果を発表する【比較社会調査・研究型教育プロジェクト】と、それを補う【社会調査メソッド修得】【国際的な情報発信能力養成】のサポートプログラムにより構成される。概要は以下である。</p> <p>(1) 【比較社会調査・研究型教育プロジェクト】 ①3大学教員による共同の演習ーアジアと欧米を結ぶ視点の形成 (第1 Semester)、②調査型と理論型の2つの比較研究プロジェクトへー調査と理論研究のシナジー効果(第2 Semester)、③合同の研究・調査の実施：SNS、遠隔地会議システムを利用した日常的な国際的研究交流、④英語を共通言語とした3大学合同の研究会ー(第1 Semester夏期一課題設定のための「合同研究会」、第2 Semester終了時「合同研究中間報告会」、第4 Semester終了時ー成果報告のための「合同研究最終報告会」)。⑤英文による成果の発信(報告集、Web による発信)</p> <p>(2) 【国際的な社会調査メソッドの修得】 ①社会調査士・専門社会調査士課程をベースにした社会調査メソッドの学習。②国際的な調査の設計、調査実施を通じた国際的に通用する社会調査メソッドの修得(教員の指導、海外メンターのサポートなど)。③社会調査センターの設置による情報アーカイブ化と社会調査メソッド修得の促進・支援。</p> <p>(3) 【情報発信能力の養成と日常的な情報発信のサポート】</p> <p>①＜国際社会研究領域＞科目群(英語による開講)の活用、②メンター制度の導入(ランカスター大学の協力により、インターネットなどによる日常的な情報発信のサポート、プレゼンテーションのサポート、国際的な社会調査メソッドに関するアドバイス等)、③遠隔地会議システム、SNS設置により国際的な研究交流の日常化を図る。</p> <p>4. 博士課程後期課程の取り組み</p> <p>「アジアにおけるポスト福祉社会研究」等をテーマとして、海外他大学の教員と連携した共同研究指導体制のもと、研究プロジェクトでのリサーチを継続し、国際学会での報告・国際学術誌への投稿支援も行う。また、海外調査・海外インターンシップへ積極的に送り出しを行うとともに、韓国中央大学、英国ランカスター大学等への短期留学制度を設定する。</p>			

立命館大学：海外大学共同による比較社会調査研究型教育

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

国際比較社会調査・研究型教育プロジェクト
 共通ゼミによる理論フレームの学習・研究→比較調査・研究→まとめ→英文での情報発信



< 採択理由 >

大学院教育の実質化の面では、「社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者と専門職業人の養成」という目的に沿った「研究コース」と「高度専門コース」の二つのコースと三つの研究領域が設置され、更に先進プロジェクト研究と応用社会学実習等の科目が適切に配置されている点や手厚い修学上の支援、積極的な情報提供体制が整備されている点は高く評価できる。

教育プログラムについては、「アジアの実態と行く末を考究しえる複眼的視野を備えた人材」を養成するために、「理論フレームの学習・研究→比較調査・研究→まとめ→英文での情報発信」という流れが教育プログラムとして構築されている点、教育プログラムの支援システムとして社会調査センターが設置される点は高く評価でき、これまでの教育実績、また本プログラムが大学全体の中で明確に位置付けられている点からみて、その実現性と今後の展開も十分に期待できる。ただし、国際的な比較社会調査については、諸国の社会的諸条件と調査方法について更に検討することによって、ランカスター大学、韓国中央大学との3大学間の連携・交流の一層の実質化を図ることが望まれる。